
傍観しようそうしよう

柊 つばさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傍観しようそつしよう

【Nコード】

N5001Z

【作者名】

柊 つばさ

【あらすじ】

私、桐嶋 咲耶は偶然が重なり死んだ。しかし、神様から家庭教師ヒットマン REBORNの世界に転生させると言われて!?!? なら傍観するしかないでしょう!?!? そんな少女の物語です。

プロローグ

はい、初めまして桐嶋きりしま 咲耶さくやです。

何か変な白い空間で目の前に金髪碧眼のイケメン君が目の前にいるという傍から見たらなんとも変な状況で固まっています。

しかもこの人聞いたところによると自分を神だと言って居るんです。ちよつと頭が可哀想な人なんですな。

「単刀直入に言おう。お前は先程死んだ」

「へー、そうですか」

「それだけか？」

「いえ、別に私は死んだからどうとかは別に今はどうでもイイんですよ。ただ、どうして私が死んだのにココに居るのかを知りたいのです」

「・・・そうか。実はな、お前は本来死ぬべきではなかった存在なのだよ。偶然にも君はその飛行機に乗ってそして偶然にもその飛行機が爆破事故を起こしてそして偶然にも君は死んでしまった。でもその偶然は本来あってはならないものだった。だから今度こそお前には人生を全うして欲しいと思った」

「そうですか。それでどうするのですか？もう一度人生をやり直すならばこのままでは流石にいけないのでしょうか？」

「ああ、そのとおりだ。だから咲耶、お前には転生してもらいたいと思う」

「転生？一体どこに？」

「それはお前の記憶にある漫画の世界とやらにしてやるつもりで。家庭教師ヒットマン REBORNという作品にしよう」

「え？それ本気で言ってるんですか？嘘じゃありませんよね？」

「ああ！勿論だ！俺は神だぞ！！なんでも出来るさ！」

「へへ（何でもね・・・）それじゃあ、私に能力を付けることって出来ますか？」

「勿論だとも！何でも言ってみる！！」

「（扱い易すぎる）そう・・・じゃあめだかボックスに出てくるアブノーマル マイナス異常性と過負荷の今から言う能力をつけてください。それと、それらの能力に耐えられるだけの体と精神力をあと私が生きていた時の身体能力やら特技やら全てください」

「そうか、でも流石に俺でも限界があるからな？」

「（む、そうなのか。まあいいか）では今から言うのを下さいよ嘘はつかないでくださいね。」

1・ ミスターアンソウン 知られざる英雄

まずはなるべく傍観したいからこれは欠かせないよね。

2 . 大嘘憑き

オールマイクシヨン

ケガとかしたりするのを直したりするには良いだろうし。物とか壊してもなかったことに出来るのは嬉しい。

3 . 枯れた樹海

ラストカーベット

護身に色々準備したいし、それに色々持ち運び出来るだろうし。

4 . 棘毛布

ハードラッピング

流れ弾とかに当たって死にたくないし。

5 . 凍る火柱

アイスファイア

もし火山とか冰山とか有るところで戦闘とかしてる場合の為に。

6 . 荒廃した腐花

ラフラフレンシア

逃げ道とかが無くなると嫌だから。

7 . 五本の病爪

ファイブフォーカス

病気とかにかからないため。主にシャマル対抗用に。

8 . 欲視力

パラサイトシーイング

キアラがどんな風に状況を見てるのか見てみたいしね。

つと、こんなものですね

「……、随分用意周到だな。まあ、それだけ心配なのだな。その能力ならなんとかしてみよう、身体能力もそれらに見合うようになる。……、だが問題が精神面なのだ。精神面に異常な負荷がかかる。だから向こうに着いたら精神安定剤を贈ろう。そうでもしないとお前の内面が壊れる。いくら精神も向上したと言ってもやはり限界があるからな」

「ふん、そうゆうことですか。まあ良いですよ、流石にノーリス
クで済むとは思ってませんし。それでは早速いきますね」

さあ！行こうか！新しい世界へ！

人物紹介

主人公

名前 桐嶋きりしま
咲耶さくや

歳 12歳でも、前世では30代

性別 女

性格 公私混同をしない。キツチリしている。

身長 160cm

体重 女性に体重を聞くものではありません！

誕生日 8月8日

髪 黒髪で腰ぐらいまである。

目の色 赤目だがカラコンで黒にしている。

容姿 目がちよつとつり目なクールビューティー。スーツを着れば
できる女に見える。

備考 前世では情報屋をやっていて、色んな情報に詳しくかった。ハ
ッキングなどもお手の物。

ファッション 黒を基本とした服。

特技 パソコン操作。ハッキング。潜入。料理。裁縫。

趣味 人の秘密を調べること。創作料理。

好きな人 公私混同をしない人。仕事を全うする人。約束をちゃん
と守る人。思いやりのある人。しっかり物事を考えられる人。

嫌いな人 周りの迷惑を考えない人。バカ。人が嫌がることを平気
でする人。明るすぎる人。ブリッ子。自分の都合ばかり考える人。

神

歳 1320歳（外見24才ぐらい）

性格 お調子者、結構心配性

身長 186cm

体重 74？

誕生日 知らん

備考 主人公の事を凄く心配してくれる。基本的にいい奴だけど煽るとすぐに乗るから扱いやすいと思われている。

趣味 物作り

トリップした人

名前 早乙女はやとめ 由利ゆり

歳 12歳

性別 女

性格 明るくみんなと仲良くなりやすい。キャピキャピしていて咲
耶がちよっと苦手なタイプ。

身長 152cmもうちよっと欲しい!!

体重 秘密?

誕生日 10月6日だよ?

髪 栗毛で肩まである。

目の色 茶色

容姿 タレ目で和み系に見える。

備考 本人に自覚は無いが世に言うブリッ子。

ファッション ピンクを基本としたフリフリな服。

特技 お菓子作り？

趣味 原作ブレイク!!

好きな人 いっぱいます!!

嫌いな人 そんな人いません!!

目の前にはさっきの空間は広がっておらず私が生前使っていた部屋がそのままの状態であった。

「っ！？これはっキツイな……。流石過負荷といったところか？
まあ、主に^{オルフライクション}大嘘憑きの影響だろうけど……。他の過負荷と異常性とも合わさっているからか結構慣れるまでキツイかもな……」

それにしても一体どうなっている？前の部屋と一緒にというのは嬉しいのだが……。うん？なにか箱が置かれている。

不思議に思った私はその箱を開けた……。何時もはこんなことはしない。でもこの時は嫌な感じはしなかったし、神から送られた精神安定剤かもしれないと思ったから。

箱の中には数本のチュッパチャップスらしき物と短剣、銃と一緒に手紙が入っていた。その手紙を開けて読んでみると。

『この手紙を読んでいるということは、無事にその世界に行けたかな？まあ、まずはそこがどこだか話そう。』

そこは沢田 綱吉の家の隣だ。家は暮らし慣れたものが良いと思つてな、そのまま持つてきた。お前の愛用の武器とか、警備システムとか、その他もろもろ移動させてきた。

それと、一番大事なことなんだが、その箱に入っている飴は精神安定剤だ。舐めても解けないようにしてある。壊れたら俺に言え。味はお前が自由で変えられるぞ。ちなみに舐めなくて10分間なら飴の効果もつようにしてある。

今は発動させていないだろうが主に、ラストカーベット 枯れた樹海対策だ。

ラストカーベ 過負荷は咲耶の精神力でもなんとかなるようにした。だが枯れた樹海は過負荷ではなくせに色々と厄介だからな。

その飴は人を殺したくなる欲望を抑えてくれる。今まで通りの状態でいられる。

まあ、おまけで過負荷もちよつと楽になるようにしといた。元々どちらかととうと過負荷寄りのお前にはいらないかもしれんがな。並盛には明日から転入という形で入れるから。

ああ、そうだ。俺に会いたい時は俺に会いたいと思つて寝ると会えるから。それじゃな。新しい人生を楽しめよ』

・・・。感謝します。能力を付けてもらうことを少し簡単に見すぎ
ていたかもしれない。

私は早速箱に入っていた飴を一つ取り出して舐めた。

すると、さっきまで心に渦巻いていたものが落ち着いたようになり
を潜めていった。

「凄いな。だいぶ楽になった」

「さて、明日に備えて色々準備しときますか」

「神様いますか？」

「おう！何の用だ？」

ココは夢の世界。会いたいと思って寝ると会えるって書いてあったから明日の準備が終わったら早速寝てみた。

まあ、そんなことはさておき内容に入ろう内容に。

「はい、実は色々聞きたいことがあるのと、そのことについてお願いがあるのですよ」

「なんだ？何か都合が悪かったか？」

「いえ、そうではなくてですね。コチラの私の経緯について教えてもらいたいのです」

「ああ、それなら安心しろ。経緯も向こうと同じにしてる。だからお前が飛級で大学主席で卒業したことも、情報屋だったことも全て

変わらん親がおらんこともな。お前が過ごした中学1年生までのモノを全てこちらに移したことになるな」

「そうですか、それを聞いて安心しました。お金とかも中1の時の量ですか？それとも死ぬ前の量ですか？」

「それは死ぬ前の量にしといたぞ。なるべく死ぬ前と同じ方が咲耶もやりやすいだろうしな。ただ経緯については矛盾が生じると面倒だから今のお前の年代に合わせた」

「有難うございます。何から何まで。聞きたいことはこれまでですが、お願いしたことがあります」

「む、なんだ？」

「はい、まずは精神安定剤なのですが食事とか、お風呂に入る時とか、寝る時とか舐め続けるのはちよつと大変なのでガムタイプも作ってもらえませんか？」

情報を売る時も今はあまりありませんが、直接会うこともありませんからその時の特徴として覚えられたら厄介ですので、そのためにもよろしく願います」

「そうか、だが精神安定剤は主に殺人情動を抑えるためのモノだけか

ら人が居ないところならば外してもいいぞ。まあ、ガムタイプも作っておく、そこは俺の盲点だった。それで？まだあるんだろう？」

「はい、あります。次に、もっと武器が欲しいです。なので様々な武器を武器庫に入れておいてください」

「おい！ちよつと待て！お前、あの武器庫には何万と武器が沢山あったじゃないか！」

そう言つて、目の前の神は私に向かって身を乗り出してそう言った。

「それでは足りません。何万ではなく何十、何百万と必要です。ちなみに投擲用のナイフとか刀とかは他のよりも多めをお願いします」

そう、あれだけの武器なら余裕で持てる。だから予備の分もとっておきたい。

「・・・分かった。色んな武器をなるべく沢山用意する」

「有難うございます。では、もうそろそろ目が覚めるのでこれで失礼させていただきます」

そう言つと咲耶が目の前から消えていった。

「は。とんでもない奴を転生させちまったかな」

その声はその空間に虚しく響いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5001z/>

傍観しようそうしよう

2011年12月20日00時54分発行